



Hyper-V ワークロードを復元する

NetApp Backup and Recovery

NetApp
June 25, 2026

目次

Hyper-V ワークロードを復元する	1
NetApp Backup and Recoveryを使用して Hyper-V ワークロードを復元する	1
ワークロードの復元の仕組み	1
Hyper-V ワークロードを復元する	2
Hyper-V VMバックアップからファイルとフォルダをリストアする	3
ファイルとフォルダを復元する	3
アクティブなライブディスクマウントセッションを管理する	5

Hyper-V ワークロードを復元する

NetApp Backup and Recoveryを使用して Hyper-V ワークロードを復元する

NetApp Backup and Recoveryを使用して、スナップショット、セカンダリストレージに複製されたワークロード バックアップ、またはオブジェクトストレージに保存されたバックアップから Hyper-V ワークロードを復元します。

これらの場所から復元

異なる開始場所からワークロードを復元できます。

- プライマリロケーション（ローカルスナップショット）からの復元
- セカンダリストレージ上の複製されたリソースから復元する
- オブジェクトストレージのバックアップからリストアする（元の場所にのみ）

これらのポイントに復元する

以下のポイントまでデータを復元できます:

- 元の場所に復元します（プライマリストレージ、セカンダリストレージ、オブジェクトストレージから）
- 別の場所に復元する（プライマリストレージとセカンダリストレージの両方から）

オブジェクトストレージからの復元に関する考慮事項

オブジェクトストレージでバックアップファイルを選択し、そのバックアップに対してランサムウェア保護がアクティブになっている場合（バックアップポリシーで Datalock とランサムウェア保護を有効にした場合）、データのリストア前にバックアップファイルに対して追加の整合性チェックを実行するように求められます。スキャンを実行することを推奨します。



バックアップファイルの内容にアクセスするには、クラウドプロバイダーから追加の送信コストが発生します。

ワークロードの復元の仕組み

ワークロードを復元すると、次のことが起こります。

- ローカルバックアップファイルからワークロードを復元すると、NetApp Backup and Recovery はバックアップのデータを使用して新しいリソースを作成します。
- 複製されたワークロードから復元する場合、ワークロードを元のシステムまたはオンプレミスのONTAPシステムに復元できます。

「復元」ページからは、リソースの正確な名前、保存場所、最後に正常に動作していた日付を覚えていなくても、リソースを復元できます。フィルターを使用してスナップショットを検索できます。

Hyper-V ワークロードを復元する

「復元」メニューを使用して、Hyper-Vワークロードを復元します。スナップショットは、名前で検索するか、フィルタを使用して検索できます。

必要なコンソール ロール バックアップおよびリカバリのスーパー管理者またはバックアップおよびリカバリの復元管理者ロール。 ["すべてのサービスに対するNetApp Consoleのアクセスロールについて学習します"](#)。

手順

1. NetApp Backup and Recoveryメニューから、[復元] を選択します。
2. 名前検索フィールドの右側にあるドロップダウン リストから、**Hyper-V** を選択します。
3. 復元するリソースの名前を入力するか、復元するリソースが配置されている VM 名、VM ホスト、またはストレージ プールでフィルターします。

検索条件に一致するスナップショットのリストが表示されます。

4. 復元したいスナップショットの*復元*ボタンを選択します。

可能な復元ポイントのリストが表示されます。

5. 使用する復元ポイントを選択します。
6. スナップショットのソースの場所を選択します。
7. 続行するには、[次へ] を選択します。
8. 復元先と設定を選択します。

目的地の選択

元の場所へのリストア

- a. * Original location * ペインを選択します。元の場所に復元すると、* Destination settings * セクションを展開することで保存先設定を表示できますが、変更することはできません。
- b. 復元後のオプション セクションで、次のオプションを検討してください。
 - 仮想マシンを起動: このオプションを有効にすると、復元後に新しい仮想マシンを起動できます。

別の場所へのリストア

- a. 代替の場所 ペインを選択します。
- b. 宛先設定: セクションで、次の情報を入力します。
 - **Hyper-V FQDN** または **IP アドレス**: 宛先 Hyper-V ホストの完全修飾ドメイン名または IP アドレスを入力します。
 - **ネットワーク**: スナップショットを復元する宛先ネットワークを選択します。
 - **仮想マシン名**: 復元する仮想マシンの名前を入力します。
 - **宛先場所**: 復元されたデータを保存する宛先フォルダまたは CIFS 共有を入力します。
- c. 復元前オプション セクションで、次のオプションを検討してください。
 - **クイック復元**: このオプションを有効にすると、復元された VM をすぐに使用できるようになります。ボリューム全体ではなく、VM の実行に必要なファイルのみがオブジェクトストアから復元されます。
- d. *復元後のオプション*セクションで、次のオプションを検討してください。
 - 仮想マシンを起動: このオプションを有効にすると、復元後に新しい仮想マシンを起動できます。

9. *復元*を選択します。

Hyper-V VMバックアップからファイルとフォルダをリストアする

プライマリストレージまたはセカンダリストレージ上のHyper-V VMバックアップから、ファイルとフォルダをWindowsゲストVMにリストアします。

ファイルとフォルダを復元する

スナップショットから仮想ディスクをマウントし、そこからファイルとフォルダを元の（ソース）Windows VMに復元します。

開始する前に

ファイルとフォルダーを復元する前に、NetApp Backup and Recovery でソース VM の資格情報を作成する必要があります。この認証情報は、復元プロセス中に仮想マシンとの認証を行うために使用されます。

タスク概要

仮想ディスクをマウントしてファイルとフォルダの復元セッションを開くと、そのセッションは48時間アク

ティブな状態を維持します。

復元パフォーマンスは、復元するファイルまたはフォルダのサイズと数の両方に依存します。データセットのサイズが同じ場合、多数の小さなファイルを復元する方が、少数の大きなファイルを復元するよりも一般的に時間がかかります。

ファイルやフォルダを復元する際は、以下の点に注意してください：



- 現時点では、LinuxゲストVMにファイルやフォルダを復元することはできません。
- オブジェクトストレージに保存されたバックアップからのファイルやフォルダの復元はサポートされていません。
- 1つのVMで一度に実行できる接続処理またはリストア処理は1つだけです。同じVMに対して並行して接続処理またはリストア処理を実行することはできません。
- 予約済みパーティションを表示または参照すると、エラーが発生する可能性があります。
- 復元操作中、ゲストファイルの隠し属性、システム属性、および暗号化属性は復元されたファイルには保持されません。
- システムファイルや隠しファイルを表示・復元したり、暗号化されたファイルを表示したりできます。
- 既存のシステムファイルを上書きしたり、暗号化されたファイルを暗号化されたフォルダに復元したりしないでください。

手順

1. NetApp Backup and Recoveryメニューから、[復元] を選択します。
2. ページ右上のワークロード一覧から*Hyper-V*を選択してください。
3. 仮想マシンのリストで、復元するファイルまたはフォルダを含むVMの*復元*アクションを選択します。
4. *ファイルとフォルダ*を選択します。
5. *Restore from snapshots*ページで、次の操作を実行します：
 - a. 必要に応じて、作成時間でSnapshotのリストを絞り込む期間を選択します。
 - b. 復元するプライマリストレージまたはセカンダリストレージ上のスナップショットを選択し、*次へ*を選択します。
6. リストから、復元する必要があるファイルとフォルダーが含まれている仮想ディスクを選択し、**Next** を選択します。
7. *Guest virtual machine details* ページで、以下の操作を行います：
 - a. *ゲスト仮想マシンの詳細*セクションで、*元の仮想マシン*を選択して、仮想ディスクを元の仮想マシンに接続します。
 - b. オプションとして、*ゲスト仮想マシンの資格情報*セクションで、ソース仮想ディスクと宛先VMの資格情報をまだ保存していない場合は、*資格情報の追加*を選択し、Windows資格情報を入力して、*追加*を選択します。
 - c. リストから、使用する仮想マシンのクレデンシャルを選択します。
 - d. *次へ*を選択します。

NetApp Backup and Recoveryは、仮想ディスクを元のVMに接続し、隠しファイルや隠しフォルダを

含むすべてのファイルとフォルダを表示します。システムで予約済みのパーティションを含む、すべてのパーティションにドライブ文字を割り当てます。

ファイルブラウザーペインの近くにある虫眼鏡（検索）アイコンを使用して、ファイルやフォルダを検索できます。パターンマッチングはサポートされていませんが、ファイル名または拡張子の一部に基づいてファイルやフォルダを検索することは可能です。

8. 復元するファイルまたはフォルダを選択してください ページで、次の操作を行います：

a. 復元するファイルまたはフォルダを選択します。

復元対象として選択したファイルとフォルダは、*選択したファイルとフォルダ*エリアに表示されます。

b. *次へ*を選択します。

9. *Guest file restore - destination* ページで、以下の操作を行います：

a. 「復元先パス」セクションで、選択したファイルを復元する宛先VMとファイルシステムの場所へのUNCパスを入力します：

▪ IPv4パスの例： \\10.60.136.65\c\$

▪ IPv6パスの例： \\fd20-8b1e-b255-832e-61.ipv6-literal.net\C\restore

同じ名前のファイルが存在する場合は、上書きするかスキップするかを選択できます。

10. 「Post-restore-options」セクションでは、*Disconnect guest session after the restore completes*設定を有効にすることで、復元完了後にゲストセッションを切断することができます。これにより、仮想ディスクが切り離され、データストアがアンマウントされます。つまり、追加のファイルやフォルダの復元操作を実行する前に、ゲストセッションに再接続する必要があるということです。

11. *復元*を選択します。

ジョブ監視ページで復元の進行状況を確認できます。

アクティブなライブディスクマウントセッションを管理する

NetApp Backup and Recovery内から、アクティブなHyper-Vファイルおよびフォルダのリストアセッションを表示、使用、および削除できます。

手順

1. NetApp Backup and Recoveryメニューから、クローン を選択します。

2. ページ右上のワークロード一覧から*Hyper-V*を選択してください。

3. *Live disk mount sessions*メニューを選択します。

開いている仮想ディスクのマウントセッションの一覧が表示されます。

4. オプションとして、セッションを使用してファイルとフォルダをゲストVMに復元するには、セッションの[アクション]メニュー...を開き、*ファイルとフォルダを復元*を選択します。

5. 必要に応じて、セッションを削除するには、セッションの [アクション] メニュー...を開き、*削除*を選択します。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。